

# インカムは裏切らない～高い利回りで改めて注目を集める債券投資の特徴と魅力について～



株式会社三井住友銀行  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号  
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

## ブラックロック・ジャパン株式会社

商号等 ブラックロック・ジャパン株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第375号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

### 【セミナーに関する留意点】

○本セミナーでは、金融商品の商品性等についてご紹介を行います。

○また、セミナー終了後に、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。○本セミナーでご紹介する商品は「三井住友銀行」取扱商品の一部です。

### 【リスク性商品に関する留意点】

○元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。○リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込む等のリスクがあります。○リスク性商品を中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。○商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書または販売用資料等でご確認ください。

# 目次

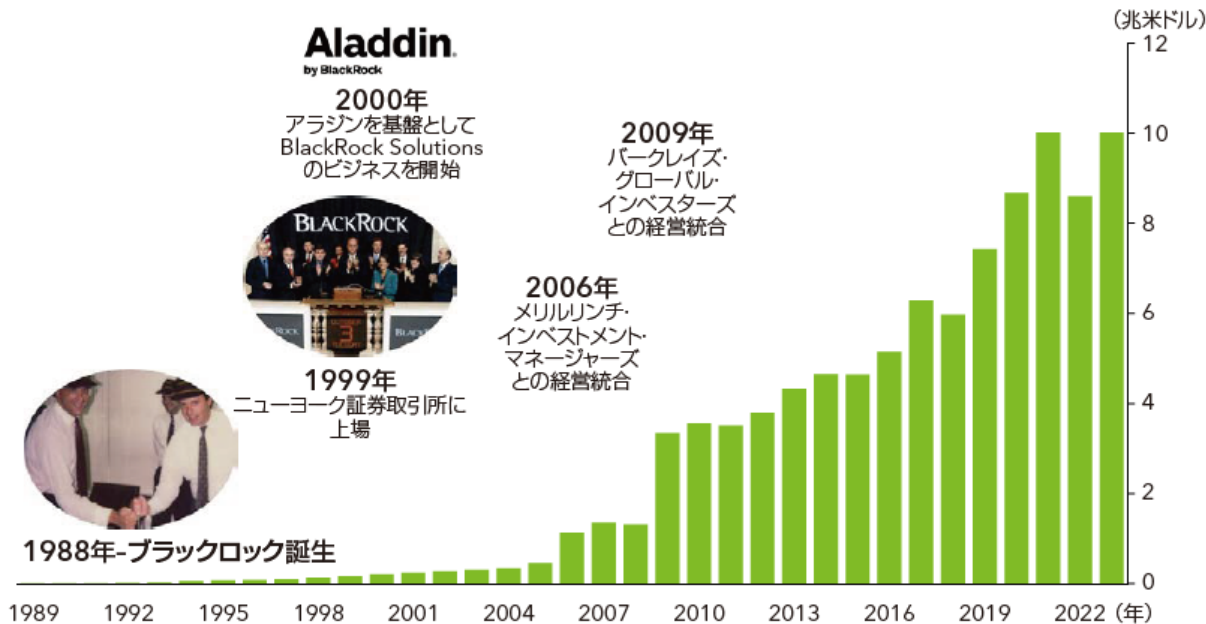
① 世界最大級の運用会社ブラックロック

② 債券投資の魅力について

③ 「ブラックロック・フレキシブル・インカム・ファンド/BINC」のご紹介

- ブラックロックは、8人のパートナーにより、1988年にニューヨークで設立されました。創業以来、既存の枠組にとらわれず、刻々と進化を重ね、資産運用を通じて最終的により多くの方の豊かな人生設計に貢献することに情熱を傾けてきました。

ブラックロック創業来の運用資産残高推移



世界の運用機関資産残高ランキング  
(2022年)

順位	運用会社	資産残高(兆円)
1	ブラックロック	1,134.0
2	バンガード・グループ	956.9
3	フィデリティ・インベストメンツ	482.3
4	ステート・ストリート・グローバル	459.4
5	J.P. モルガン・チェース	365.0

出所：Pensions & Investments "The world's largest 500 asset managers - A Thinking Ahead Institute and Pensions & Investments joint study- " as of Dec. 31, 2022 ブラックロック  
円換算レート：1米ドル=131.945円(WMロイター、2022年12月末時点)  
注意事項：このランキングは、2022年12月31日現在のグローバルの資産運用残高8.59兆米ドルに基づいて作成されたものです。このランキング情報は2023年10月18日発行の紙面に掲載されており、さらにwww.pionline.com/specialreportsからもご覧いただけます。ランキングに関する情報の転載は許可が必要です。Pensions & Investments. copyright.

企業理念

「より多くの方が豊かな生活をおくれるよう、サポートします」

約1,585兆円の運用資産

世界の機関投資家を始め、様々な投資家へ資産運用ソリューションを提供

顧客基盤は100ヶ国以上

世界に拠点を構えプロフェッショナルを配する世界有数の資産運用会社

2,800名の運用プロフェッショナル

各国に点在する運用プロフェッショナル

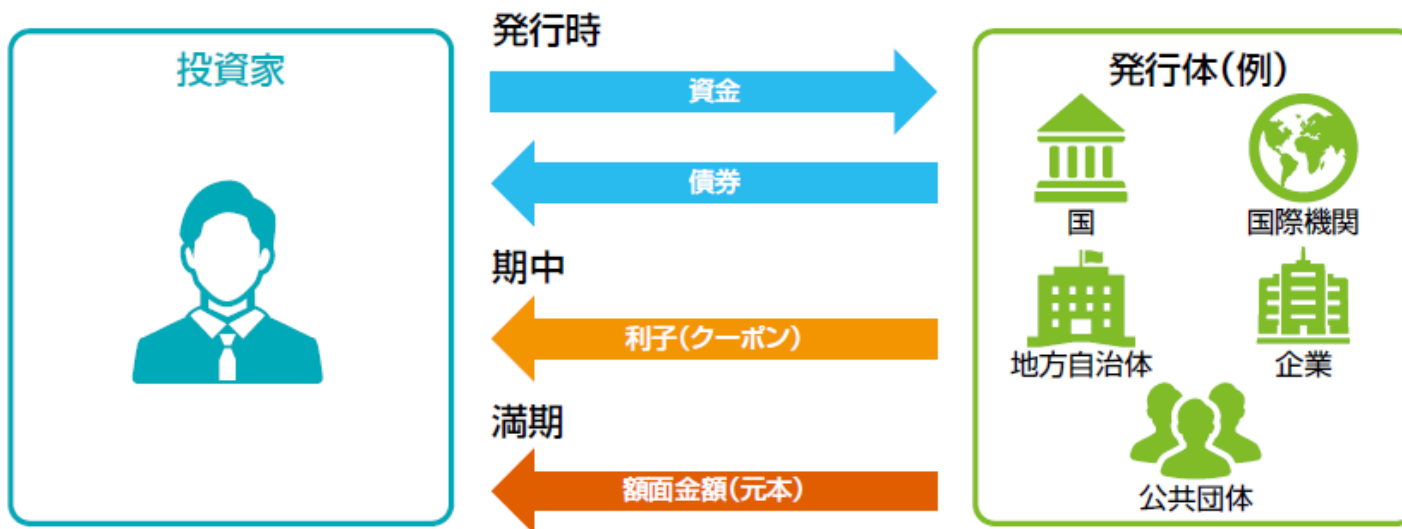
Aladdin<sup>®</sup>利用社数1,000社

Aladdinを使った運用面のサポートは幅広い金融機関より支持を受けています

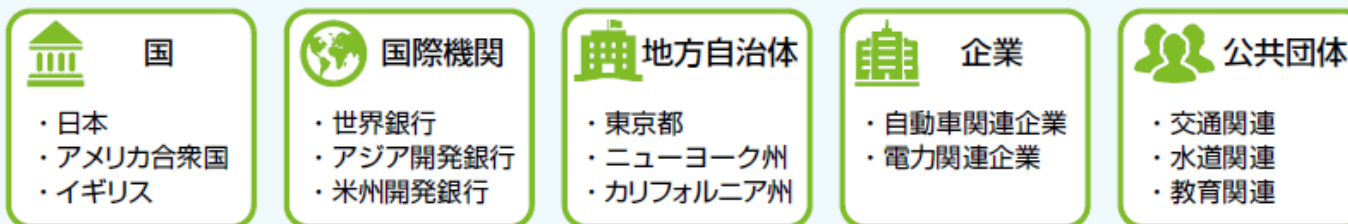
出所：ブラックロック  
2024年3月末現在 (円換算レートは1米ドル=151.345円を使用)

# 債券とは何か

- 債券とは、国や地方公共団体、事業会社、金融機関などが、資金を調達するために発行する有価証券のことです。
- 債券の発行者は債務者であり、投資家は債権者であることから、債券は一種の「借用証書」のようなものです。



## 発行体の例



出所：ブラックロック。

上記はイメージ図であり、債券の特徴をすべてを説明するものではありません。

# 債券の種類

- 発行体・償還までの期間・利率などの条件が異なり、それぞれが独自の特徴を持っています。





債券の種類	発行体の属性	発行体の例	特徴
 国債	各国政府	米国政府 日本政府	安全性が高く、利回りは低い
 政府関連債	地方自治体 政府系機関	カルフォルニア州 東京都	国債に準ずる安全性
 投資適格社債	信用力の高い企業	バンク・オブ・アメリカ アップル	信用力が高い企業が発行するため、信用リスクのある債券のなかでは利回りが低め
 ハイイールド債	信用力の低い企業	アメリカン航空 ウーバー	信用力が低い企業が発行するため、信用リスクのある債券のなかでは利回りが高め
 新興国債券 (国債、社債等)	新興国の国や企業	メキシコ ブラジル	一般的に先進国の国債や社債と比べ利回りが高い。政治リスクが価格変動要因となることもある

※上記は各債券の概要を説明したものであり、債券の特徴をすべてを説明するものではありません。



## 証券化商品

- 証券化商品とは、債権（住宅ローン、自動車ローン、クレジットカードローン、企業向けの貸出債権など）から発生する元利金等のキャッシュフローを裏付けにして発行される証券のことです。

債券の種類	発行体や担保債券の属性	特徴
 ABS	自動車ローン、クレジットカードローンなど	自動車ローンや学生ローンなど、様々な債権を担保とした証券化商品 Asset Backed Securitiesの略
 MBS	住宅ローン	個人向け住宅ローンを担保とした証券化商品。米国政府による実質的な保証を有しているものは政府系MBS、政府保証がないものは非政府系MBSとよばれる Mortgage Backed Securitiesの略
 CMBS	商業用不動産ローン	商業用不動産（物流施設、集合住宅、ホテル、オフィス、小売り施設、データセンターなど）ローンを担保とした証券化商品 Commercial Mortgage Backed Securitiesの略
 CLO	バンクローン	バンクローン（銀行の企業向けの融資）等を担保とした証券化証券。 市場金利の変動に伴い、利息が変動します Collateralized Loan Obligationの略

※上記は各債券の概要を説明したものであり、債券の特徴をすべてを説明するものではありません。

# 債券の特徴

- 債券の最大の特徴は、あらかじめ決められた条件で利息収入を得ることができる点です。\*

## 債券と株式の比較

	債券	株式
仕組み	国や企業にお金を貸す	企業のオーナーになる
満期	あり	なし
元本	満期まで保有することで元本の返済が約束される*	元本保証なし
収益の源泉	インカムゲイン：利息収入（クーポン） キャピタルゲイン：売買益、償還差益  発行時に決められた条件で利息収益が支払われます。	インカムゲイン：配当金 キャピタルゲイン：売買益
途中売却	可能	可能
価格変動	株式などと比べて変動が小さく、安定的	大きい

- **インカムゲイン（インカム収益）**とは、資産を保有することで**定期的に得られる収益**のこと
- **キャピタルゲイン**とは、資産の価格が上昇した際に、その資産を**売却することで得られる売却益**のこと

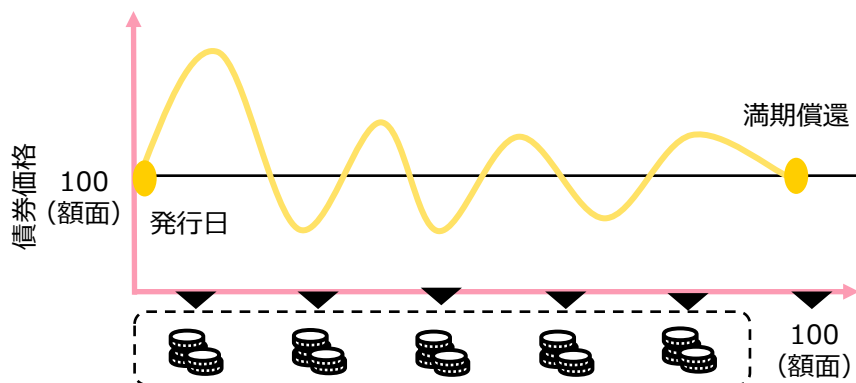
出所：ブラックロックが作成。

(※) デフォルトした場合は、元本の返済がされず、利払いがされない場合があります。

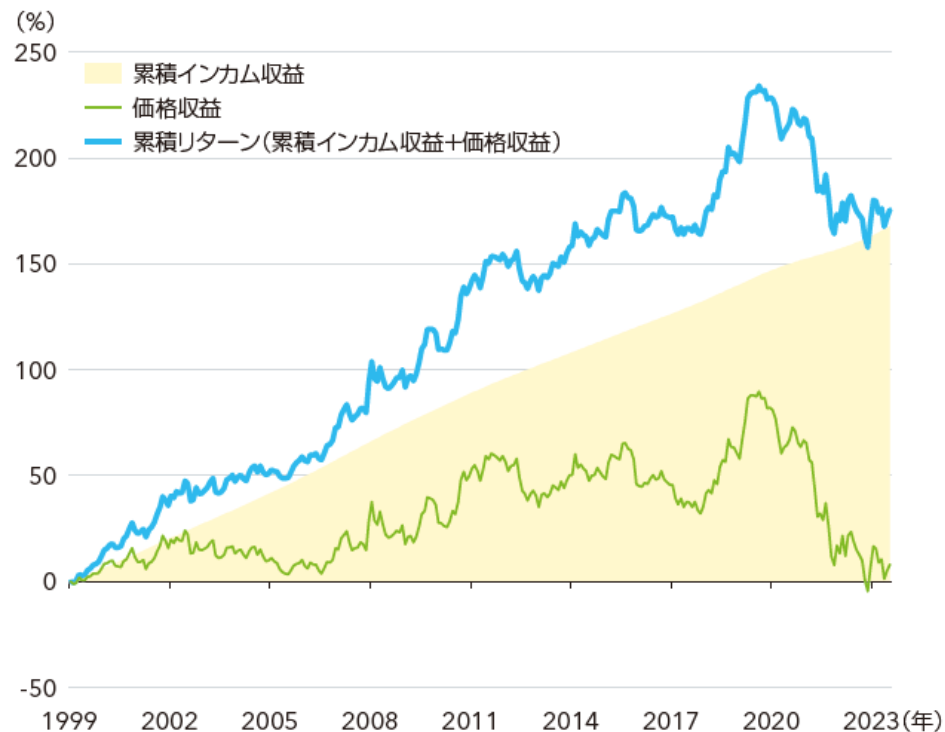
# インカム収益

債券投資において  
長期のリターンを左右するのは  
一時的なキャピタルゲインやロスではなく  
**インカム収益**です。

高水準のインカムの積み上げが  
長期での債券運用の鍵といえます。



## 債券投資の累積リターン要因分解（イメージ図）



\*債券投資におけるインカムとは、債券から得られる利金のことを指しており、デフォルト等があった際には、受け取れない場合があります。  
「インカムは裏切らない」とは、一度受け取ったインカム収益は基本的に減ることはない、ということを表示していますが、投資にはリスクが伴い、収益が保証されるわけではありません。

出所：ブルームバーグの米国国債(7-10年)指数の米ドル建て月次データをもとにブラックロック作成(1999年12月末から2024年6月末)。当該指数については、後述の「本資料で使用したデータについて」をご参照ください。  
※上記は過去の実績であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。



# 債券投資のエントリーチャンス

- 足元の債券利回りは、過去と比べ、高い水準となっております。そのため、債券のインカム収益の魅力が高まっています。また、仮に利下げにより利回りが下がっても、債券価額の上昇により収益の獲得が見込めます。

## 米国10年国債利回り等の推移

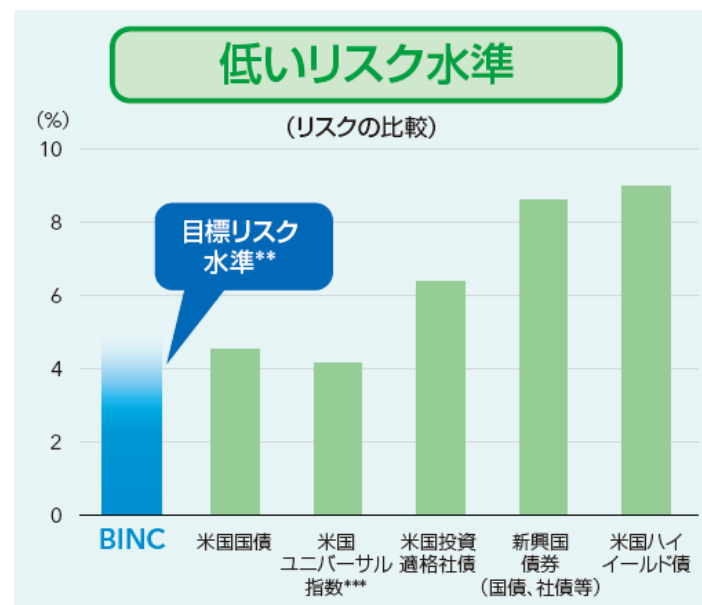
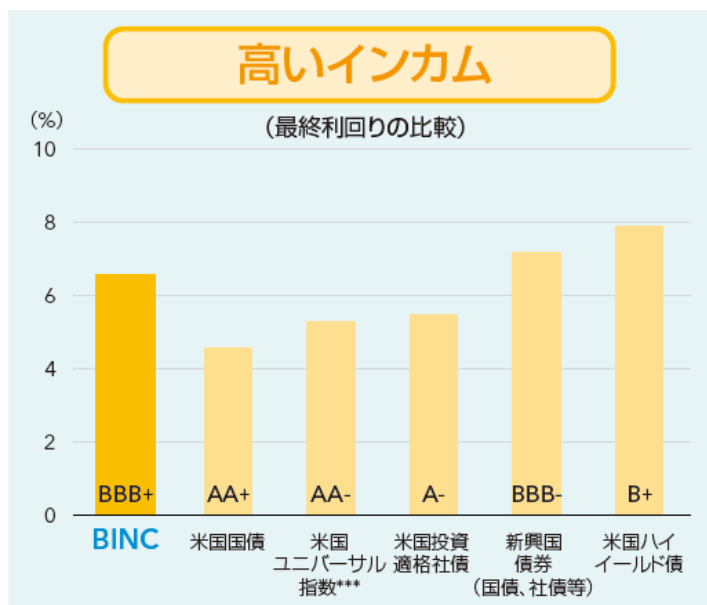


出所：ブルームバーグ。米国10年国債利回りおよび米国政策金利の米ドル建て日次データをもとにブラックロック作成（1999年12月末から2024年7月末）。米国政策金利予想値は、ブルームバーグが集計した2025～2027年の6月末の米国政策金利の水準。

※上記は過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

# ブラックロック・フレキシブル・インカム・ファンド/BINC

- 当ファンドでは、歴史的に魅力的な債券の中でも、「高インカム」を「低いリスク水準」で獲得を目指しています。



\* BINCは、当ファンドの主要投資対象ファンドである「ブラックロック・フレキシブル・インカムETF」を指します。

\*\* 目標リスク水準は、米国国債や米国ユニバーサル指数など一般的な米国債券のリスク水準と同水準のリスクを目安としてポートフォリオを構築することを目指すという意図で使用しており、市場環境によってはこの水準を上回る可能性があります。

\*\*\* 米国ユニバーサル指数は、投資適格格付級の米国の国債、社債、証券化商品などで構成される米国総合指数にハイイールド債などが加わった、より広範な債券資産を表す指標です。

出所：ブルームバーグの各債券指数の米ドル建て月次データおよび指数構成銘柄と格付データをもとにブラックロック作成。「最終利回りの比較」は2024年6月末時点、「リスクの比較」は2003年9月末から2024年6月末の月次騰落率の標準偏差を年率換算。各債券指数については、後述の「本資料で使用したデータについて」をご参照ください。

※ BINCおよび各債券指数の格付は、ポートフォリオまたは指数構成銘柄のブルームバーグの格付データを加重平均したもの。BINCの格付は当ファンドの格付ではありません（格付は2024年6月末時点）。

※ 上記は過去の実績であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

## 運用のポイント

① **どのような債券に投資しているのか**

高いインカム収益を実現するため、“高付加価値のインカム債券”を中心に幅広く投資

② **どのように運用しているのか**

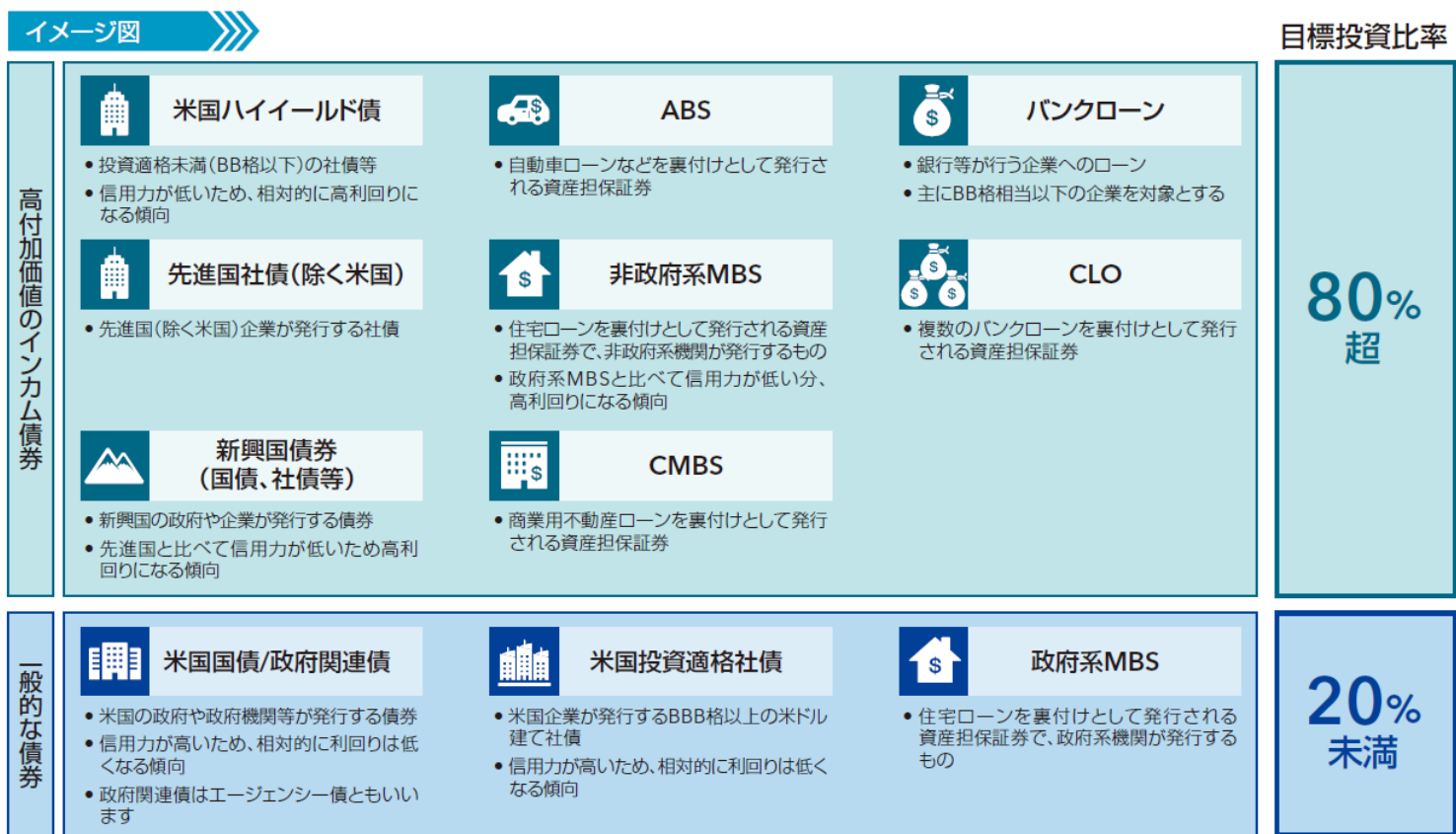
徹底した分散投資により、リスクを低減

③ **誰が運用するのか**

世界最大級の運用会社ブラックロックが運用

# 高付加価値のインカム債券

- “高付加価値のインカム債券”は、一般的な債券と比較して、リスク対比の利回りが高い傾向にあります。信用力が高い一方で利回りの魅力が劣る一般的な債券への投資比率は20%未満に抑制し、“高付加価値のインカム債券”へ80%を超えて投資することで  
**長期的に、安定的に、効率的にインカム収益の獲得を目指します。**

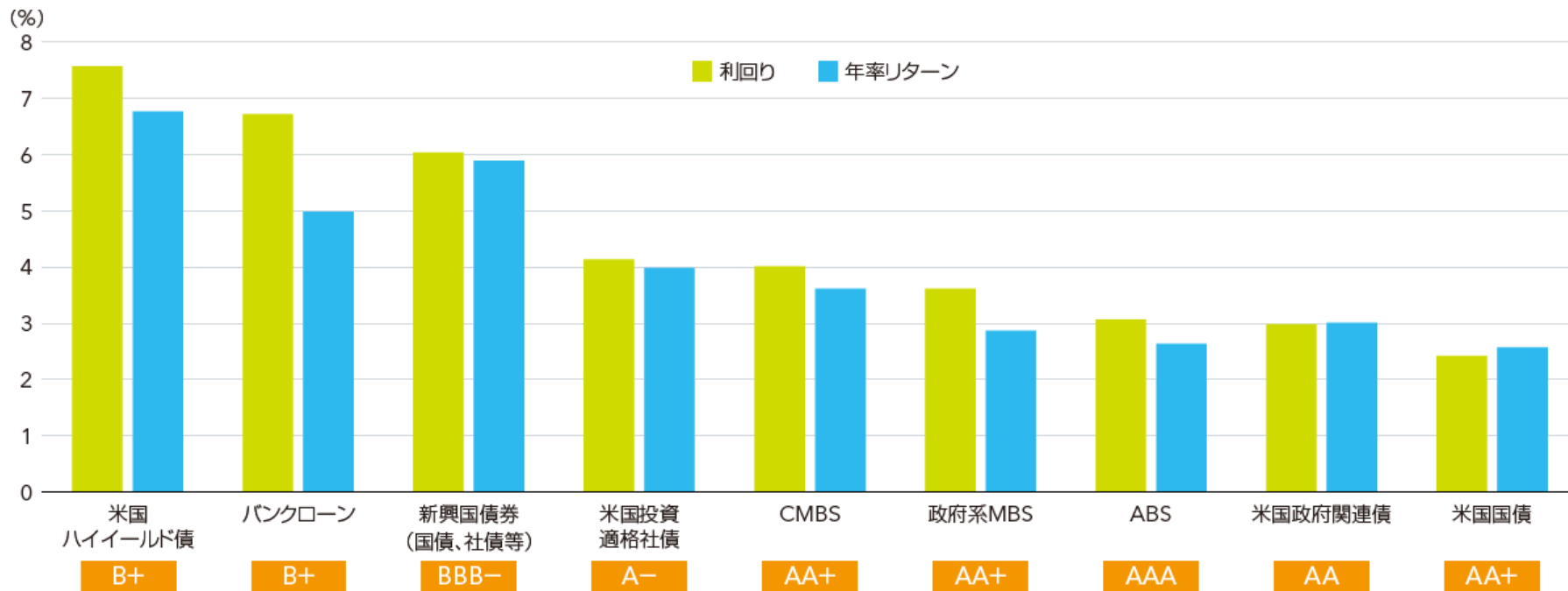


※上記は各債券の概要を説明したものであり、債券の特徴をすべてを説明するものではありません。

# 高付加価値のインカム債券

- 債券投資では、インカム収益がその後の中長期的なリターンを左右する傾向があります。
- 当ファンドでは、リターン向上のため、高いインカム収益を追求します。

さまざまな債券の利回りと年率リターンの長期平均値



※利回り：期間中の各月末時点の最終利回りの平均値。

※年率リターン：期間中の累積リターンを年率化したもの。

出所：ブルームバーグの各債券指数およびモーニングスターLSTA米国レバレッジド・ローン指数の米ドル建て月次データおよび指数構成銘柄と格付データをもとにブラックロック作成（2003年9月末から2024年6月末）。各債券指数については、後述の「本資料で使用したデータについて」をご参照ください。

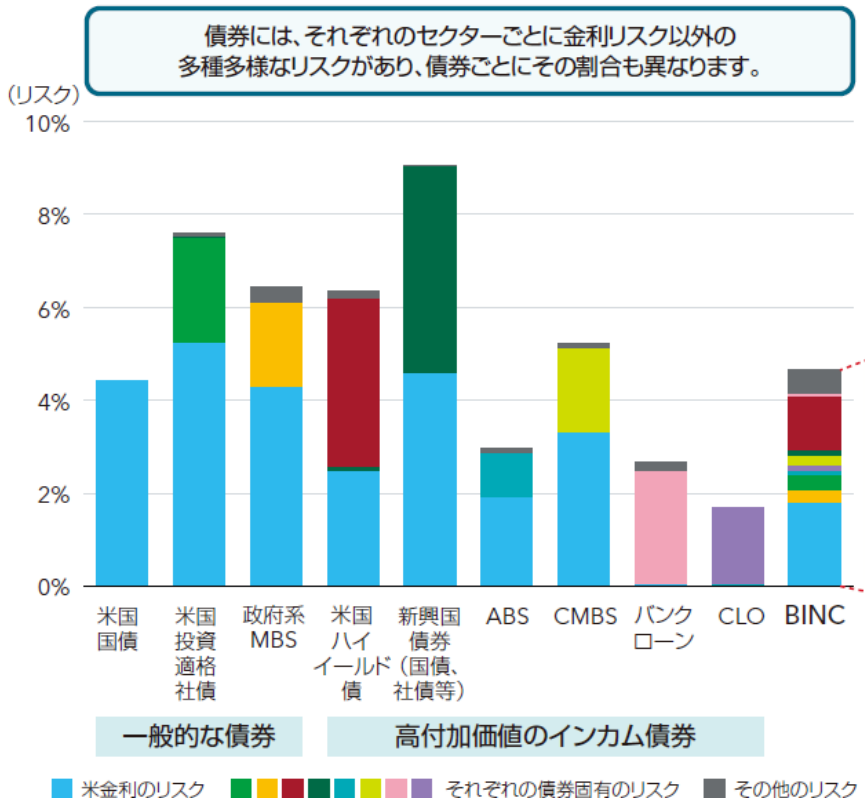
※各債券指数の格付は、ポートフォリオまたは指数構成銘柄のブルームバーグの格付データを加重平均したもの（格付は2024年6月末時点）。

※上記は過去の実績であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

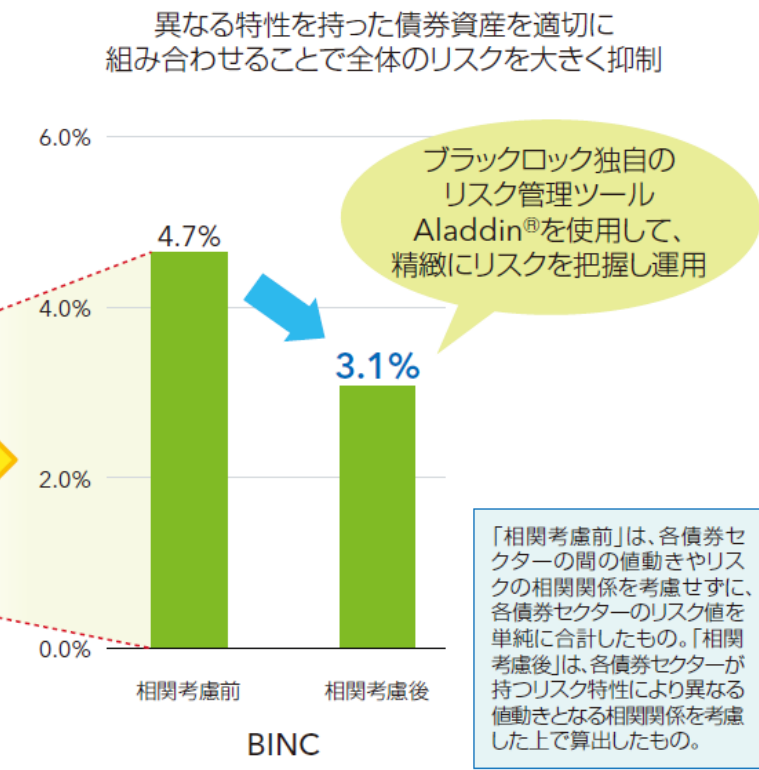
# 分散投資によるリスク低減

- 当ファンドでは、それぞれの債券の特性を考慮し、特定の分野にリスク特性がかたよらないよう分散投資を行うことにより、インカム収益を確保しつつ、ポートフォリオのリスクの低減をはかります。

## 債券セクターごとのリスク値とリスク特性の内訳



## 分散の効果：リスクの低減



出所：ブルームバーグの各債券指数、JPモルガンCLOIE指数およびモーニングスターLSTA米国レバレッジド・ローン指数の米ドル建て指数の構成銘柄のデータを使用。各債券のリスク特性は、ブラックロックのリスク分析ツールを使用し、過去150ヶ月（2012年1月から2024年6月の月次データ）におけるポートフォリオが持つリスクを米金利の変動によって影響を受ける部分とそれ以外の要因部分とに分けて表示したもので、一般的な各債券の実績データをリスク分解し過去の実績として表示する方法とは異なります（2024年6月末、年率換算）。各債券指数については、後述の「本資料で使用したデータについて」をご参照ください。  
※当リスクは、過去の値動き等を分析し想定されるリスクを可視化したものであり、実績値ではありません。また、将来の運用成果を保証するものではありません。



## アメリカで注目されている運用者のひとり

- BINCの運用責任者で、ブラックロックのグローバル債券CIOを務めているリック・リーダーは、2023年にモーニングスター「アウトスタンディング・ポートフォリオ・マネージャー」を受賞しました。
- ブラックロックのファンダメンタル債券運用プラットフォームは、200名超のメンバーで構成され、2.4兆米ドルを超える債券運用戦略を世界中のお客さまへ提供しています。

### BINCの運用責任者



#### リック・リーダー

- ブラックロック グローバル債券最高投資責任者(CIO)
- 米国を代表する運用者の一人
- 37年の運用経験年数、約2.4兆米ドルの運用責任
- 外部では、米国Alphabet/Google社の投資諮問委員会およびスイスのUBS研究諮問委員会の委員を務める。
- 過去には、米財務省国債諮問委員会メンバーおよび副議長、ニューヨーク連邦準備銀行インベストメント・アドバイザー・コミティのメンバー等を歴任

#### 主運用者の 受賞歴

- 2013年 Fixed Income Analysts Society「Hall of Fame」
- 2015年 Institutional Investor社「グローバル・アンコンストレインド・フィクスト・インカム・マネージャー・オブ・ザ・イヤー」
- 2023年 モーニングスター「アウトスタンディング・ポートフォリオ・マネージャー」

出所：ブラックロック  
2024年3月末現在

### イメージ図

#### ファンダメンタル債券運用プラットフォーム

グローバル・マクロ	米国地方債	CMBS
米国投資適格社債	米国ハイイールド債	欧州クレジット
非政府系MBS	ABS	CLO
アジア・クレジット	政府系MBS	新興国債券

各債券ごとに専門のチームを有し、  
総勢200名超のメンバーが、幅広い債券をリサーチ

### BINCの運用チーム

リスク管理プラットフォーム“Aladdin®”により  
メンバーが同じ目線でポートフォリオの状況を把握

### Aladdin®

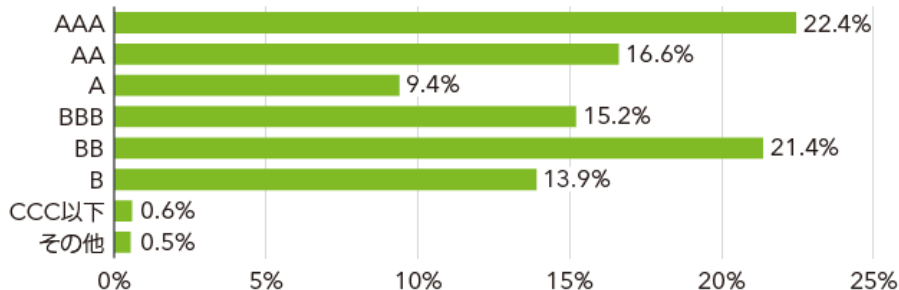
※上記はBINCならびに特定のファンドに対する受賞ではありません。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証したものではありません。

# 運用状況 2024年6月末時点

## 特性値

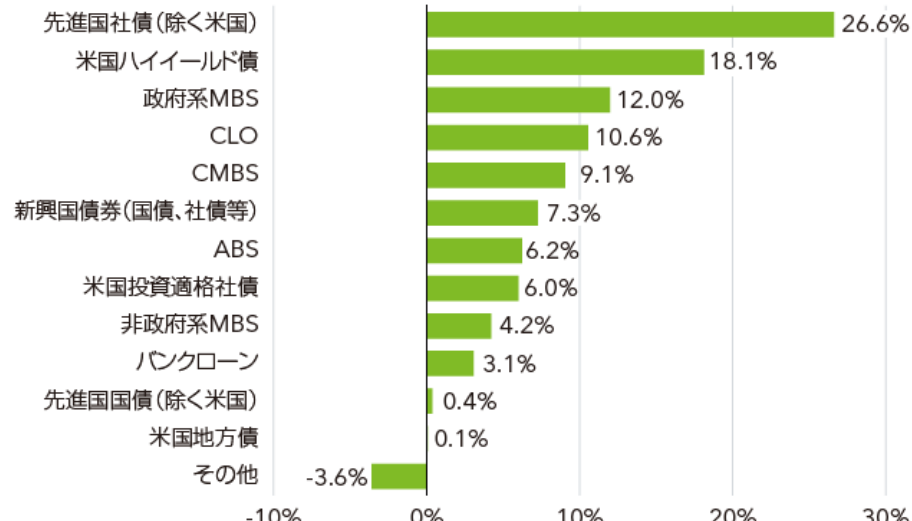
平均格付*	BBB+
平均最終利回り	6.56%
平均デュレーション	3.16年
組入れ銘柄数	2,271銘柄

## 格付別配分



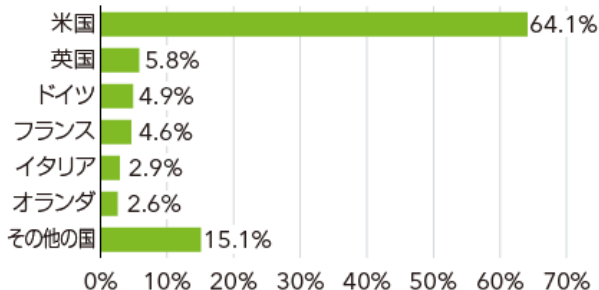
「その他」にはキャッシュ、キャッシュ同等、デリバティブ、無格付銘柄などが含まれます。

## 債券セクター別配分



「その他」にはキャッシュ、キャッシュ同等、デリバティブなどが含まれます。

## 国別配分



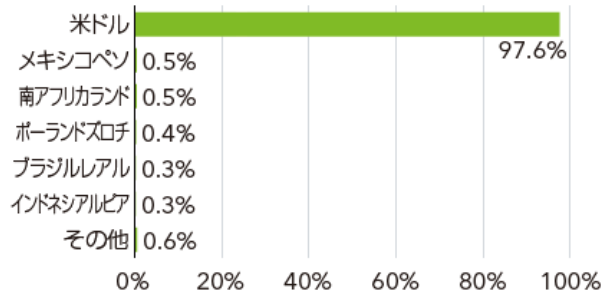
「その他の国」にはキャッシュ、キャッシュ同等、デリバティブなどが含まれます。

出所：ブラックロック。ウェイトは全て時価総額ベース。構成比率の数値は四捨五入の関係上、合計が100%とならない、あるいは合わない場合があります。

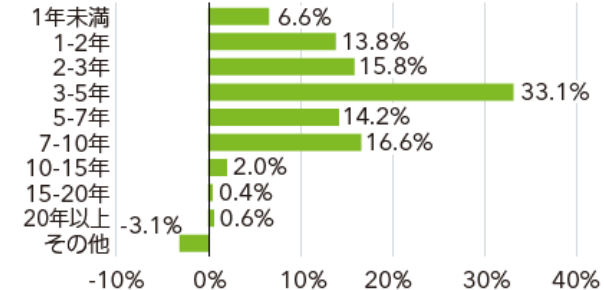
\* 平均格付は、当ファンドおよび主要投資対象ファンド BINCに係る信用格付ではありません。

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

## 通貨別配分



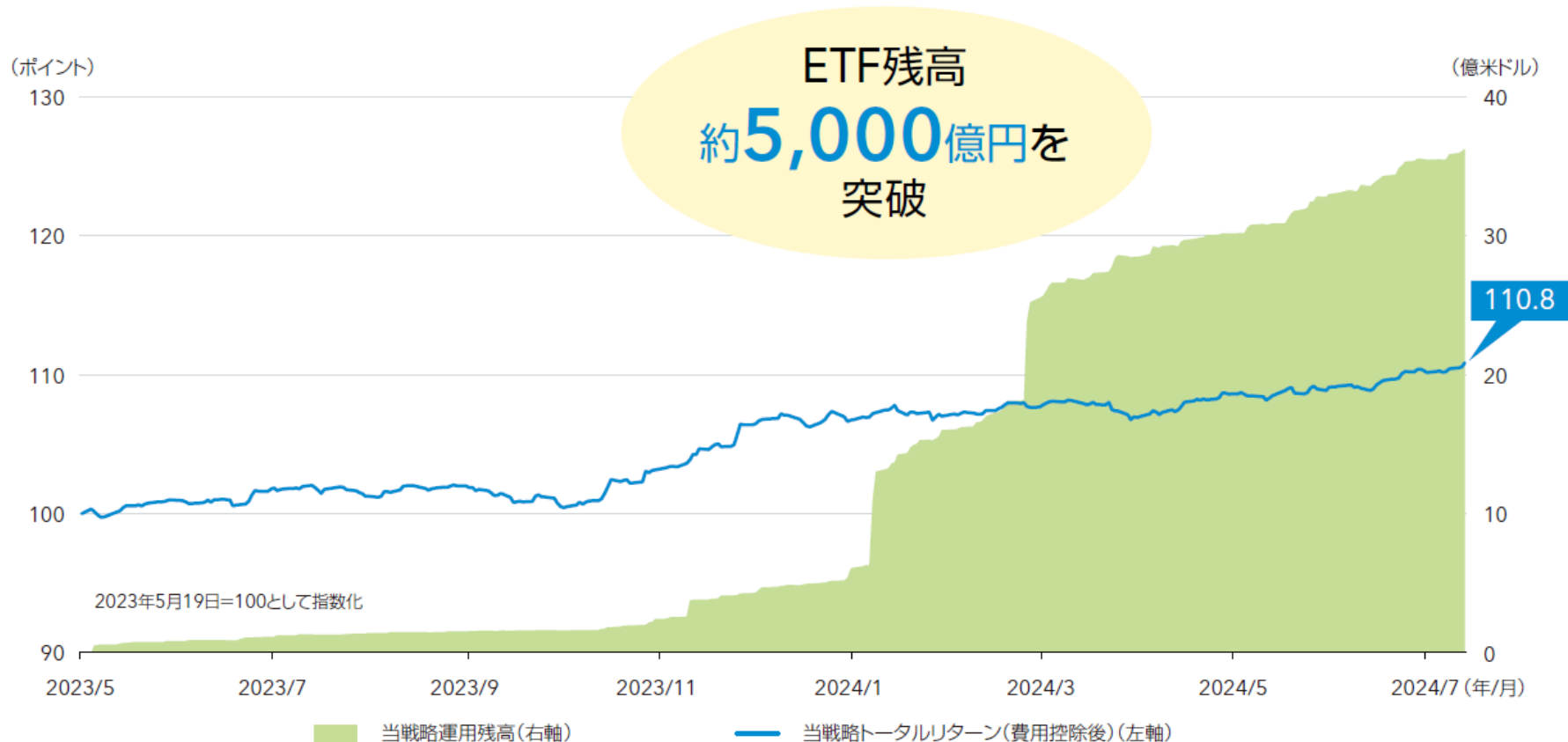
## 残存期間別配分



# 運用状況

- BINCは、2023年5月19日の設定後、わずか1年程度で運用残高5,000億円を突破しています。

下記は、BINCの過去の実績をもとに算出したパフォーマンスであり、当ファンドの実際の運用実績ではありません。また、当ファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。



BINCは、当ファンドの主要投資対象ファンドである「ブラックロック・フレキシブル・インカムETF\*」を指します。

\*「ブラックロック・フレキシブル・インカムETF」は、2024年10月10日（米国時間）に、「iシェアーズ フレキシブル・インカム・アクティブETF」に名称変更となる予定です。

出所：2023年5月19日から2024年7月末までの日次データをもとにブラックロックが作成。米ドルベース。国内投資信託の信託報酬（年0.484%）相当額を控除後。為替レートは1米ドル = 150.56円（2024年7月末）を用いて円換算。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

# お申込みメモ (三井住友銀行でお申込みの場合)



購 入 単 位	1万円以上1円単位 ※投信自動積立の場合は1万円以上1千円単位、スイッチングの場合は1円以上1円単位
購 入 価 額	購入受付日の翌営業日の基準価額
換 金 単 位	1円以上1円単位
換 金 価 額	換金受付日の翌営業日の基準価額
換 金 代 金	換金代金は原則として、換金受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
購入・換金申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休場日に該当する場合には、販売会社の営業日であっても購入・換金は受け付けません。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、ファンドが投資対象とする上場投資信託の取引停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の受付を中止・取消しする場合があります。
信 託 期 間	2034年10月13日まで(設定日:2024年8月30日)
繰 上 償 還	各ファンドは換金により各ファンドの受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合、または各ファンドを償還させることが投資者のため有利と認められる場合、その他やむを得ない事情が発生したとき等には、信託期間の途中でも信託を終了(繰上償還)させる場合があります。
決 算 日	(資産成長型)4月15日および10月15日(ただし休業日の場合は翌営業日) (実績分配型)毎月15日(ただし休業日の場合は翌営業日) ※初回決算日は2024年10月15日
収 益 分 配	毎決算時に収益分配方針に基づき分配します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。販売会社と投資者との間の契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課 税 関 係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。当ファンドは、NISAの対象ではありません。配当控除または益金不算入制度の適用はありません。 ※上記は2024年5月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
ス イ ッ チ ン グ	各ファンド間でスイッチングが可能です。



# ファンドの費用 (三井住友銀行でお申込みの場合)



## 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	ご購入代金に応じて、下記の手数料率をご購入金額(ご購入価額(1口当たり)×ご購入口数)に乗じて得た額			
	購入代金	5,000万円未満	5,000万円以上5億円未満	5億円以上
	手数料率	<b>2.20%(税抜き2.00%)</b>	<b>1.65%(税抜き1.50%)</b>	<b>0.55%(税抜き0.50%)</b>
<p>※スイッチング手数料はかかりません。                  ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。                  ※別に定める場合はこの限りではありません。</p>				
信託財産留保額	ありません。			

## 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	<p><b>【実質的な負担】</b>                  ファンドの実質的な運用管理費用(A+B)は、<b>年0.984%(税抜0.94%)以内</b>となります。なお、ファンドが投資対象とする上場投資信託において、別途上場投資信託等を組入れる場合があり、その場合別途管理報酬がかかります。</p>
	<p>(A) ファンドの純資産総額に対して年0.484%(税抜0.44%)の率を乗じて得た額                  ※運用管理費用(信託報酬)は、日々計上され、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。</p> <p>(B) ファンドが投資対象とする上場投資信託に係る運用管理費用等                  ファンドが投資する上場投資信託の純資産総額に対して年0.50%以内が管理報酬としてかかります。                  ※2024年5月末現在 年0.40%となっています。</p> <p>ファンドが投資対象とする上場投資信託において、別途上場投資信託等を組入れる場合があり、その場合別途管理報酬がかかりますが、その銘柄や組入比率は固定されていないため、事前に料率、上限額などを表示することはできません。</p>
その他の費用・手数料	<p>目論見書の作成費用、運用報告書の作成費用、ファンドの財務諸表監査に関する費用等の諸費用について、ファンドの純資産総額の年0.11%(税抜0.10%)を上限として、日々計上され、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払うことができます。</p> <p>ファンドの諸経費、売買委託手数料、外貨建資産の保管費用等について、その都度、ファンドから支払われます。ファンドが投資対象とする上場投資信託に係る保管報酬、事務処理に要する諸経費等が当該投資対象ファンドから支払われます。また、有価証券の貸付を行った場合は、信託財産の収益となる品貸料の2分の1(100分の50)相当額が報酬としてファンドから運用の委託先等に支払われます。</p> <p>※その他の費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。</p>

※当該手数料および費用等の合計額については、ファンドの保有期間等に応じて異なりますので表示することができません。

※購入時手数料、運用管理費用(信託報酬)およびその他の費用・手数料は、消費税および地方消費税に相当する金額を含みます。

# その他の留意点

## その他の留意点

◆当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。

### ◆流動性リスクに関する事項

当ファンドが保有する資産の市場環境等の状況により、保有有価証券の流動性が低下し、投資者からの換金請求に制約がかかる等のリスク（流動性リスク）があります。当ファンドにおいて流動性リスクが顕在化すると考えられる状況は以下の通りです。

- 金利の急激な変動または信用リスク不安が高まる等の影響により、債券価格の変動が大きくなるまたは取引量が著しく少なくなる等、債券市場動向が不安定になった場合
- デリバティブ市場において価格変動が大きくなるまたは取引量が著しく少なくなる等、デリバティブ市場動向が不安定になった場合
- 投資対象とするETFの価格変動が大きくなるまたは取引量が著しく少なくなる等、当該ETFの上場市場の動向が不安定になった場合

※金融商品取引所等における取引の停止時、決済機能の停止時または大口の換金請求については、換金請求に制限がかかる場合があります。

### ◆収益分配金に関する留意点

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

## リスクの管理体制

委託会社ではリスク管理を重視しており、独自開発のシステムを用いてリスク管理を行っております。具体的には、運用担当部門から独立したリスク管理担当部門においてファンドの投資リスクおよび流動性リスクの計測・分析、投資・流動性制限のモニタリングなどを行うことにより、ファンドの投資リスク（流動性リスクを含む）が運用方針に合致していることを確認し、その結果を運用担当部門にフィードバックするほか、社内関係者で共有しております。また、委託会社の業務に関するリスクについて社内規程を定めて管理を行っております。

※リスクの管理体制は、変更となる場合があります。

## 委託会社、その他の関係法人の概況

委託会社：ブラックロック・ジャパン株式会社（投資信託財産の運用の指図等を行います。）

受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社（投資信託財産の保管・管理・計算等を行います。）

販売会社：株式会社三井住友銀行

（受益権の募集の取扱いおよび販売、投資信託説明書（交付目論見書）の交付、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行います。）



## ご留意事項

- 当資料は情報提供を目的としてブラックロック・ジャパン株式会社が作成したものであり、当資料をもって有価証券の売買の勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料はブラックロックが信頼できると判断した資料・データ等に基づいて作成しておりますが、その正確性および完全性について保証するものではありません。
- 当資料中の各種情報（予測を含む）及びデータは過去のものであり、今後の成果を保証するものではありません。
- 当資料中のコメントは作成日現在のブラックロックの判断を示したものであり、今後の経済動向や市場環境等の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し予告なく変更される可能性があります。
- 投資信託は金利等の値動きのある債券（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので基準価額は運用実績によって変動し、その元金の保証や一定の成果をお約束することはできません。従いまして投資信託に投資した資産の価値の減少を含むリスクは投資信託をご購入のお客さまが負うこととなります。
- 投資信託を取得される場合には、投資信託説明書（目論見書）を取得申込み前または申込みと同時に お渡し致しますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。尚、投資信託は預金保険機構の対象商品ではありません。

## 三井住友銀行より投信信託に関してご留意いただきたい事項

- 投資信託をご購入の際は、最新の「投資信託説明書（交付目論見書）」および一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。これらは当行本支店等にご用意しています。
- 投資信託のご購入、換金にあたっては各種手数料等（購入時手数料、換金時手数料、信託財産留保額等）が必要です。また、これらの手数料等とは別に信託報酬と監査報酬、有価証券売買手数料等その他費用等を毎年、信託財産を通じてご負担いただきます。お客さまにご負担いただく手数料はこれらを足し合わせた金額となります。
- 投資信託のご購入、換金にあたって円貨から外貨または外貨から円貨へ転換の際は、為替手数料が上記の各種手数料等とは別にかかります。購入時と換金時の適用為替相場には差があるため、為替相場に変動がない場合でも、換金時の円貨額が購入時の円貨額を下回る場合があります。
- これらの手数料等は各投資信託およびその通貨・購入金額等により異なるため、具体的な金額・計算方法を記載することができません。各投資信託の手数料等の詳細は、目論見書・販売用資料等でご確認ください。
- 投資信託は、元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資信託は国内外の株式や債券等へ投資しているため、投資対象の価格の変動、外国為替相場の変動等により投資した資産の価値が投資元本を割り込むリスクやその他のリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うこととなります。
- 外国投資信託のお取引にあたっては、外国証券取引口座の開設が必要です。
- 投資信託は預金ではありません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。預金保険については窓口までお問い合わせください。
- 当行で取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当行は販売会社であり、投資信託の設定・運用は委託会社が行います。